

モーセのような預言者

アミール・ツアルファティ

-モーセが言う“私のような預言者”とは、誰なのか-

<https://youtu.be/L16u099-Tss>

今朝、初めのメッセージは、『モーセのような預言者』。それでは、祈りから始めましょう。

お父様、あなたの御言葉に感謝します。あなたの御言葉が真実であることを感謝します。イエスご自身が、ご自分についてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、必ず全部成就すると言われたことを感謝します。今朝、私たちはそれらの約束と、その成就を検討したいと思います。そしてお父様、そのことを通して、私たちは確信、完全な確信を得ることが出来ることをあなたに感謝します。あなたが私たち全員に約束されたすべての素晴らしいことについて、また、それらの成就の確かさについて。私たちはあなたに感謝し、あなたを褒めたたえます。イエスの御名によって。

アーメン。アーメン。

重ねて、おはようございます。今朝、私たちはまた、私にとって特別な主題に触れていきます。「旧約聖書の中のイエス」は大変興味深いものだと思います。私たちは文字通り、聖書の最初のページから、彼のことを見る事が出来ます。神が「光よ。あれ」と言われたとき、太陽も、月も、星も、間違いなく、第1日目にはありませんでした。第2日目にも、第3日目にもありませんでした。それらは第4日目によろやく造られました。しかし、世界には光がありました。それはイエスだったのです。イエスは「わたしは世の光です」と言われました。まさにそのために、一番終わりに、神がすべてのものを新しくされる時、新しい天、新しい地、新しいエルサレムでは太陽も、月も、星も、もう必要がなくなります。その理由は、聖書によると、神の子羊がメノーラーになり、ともしびになり、そこでの光になるからです。だから、私たちは彼が世の光であったことを知っています。そして、彼は、私たちが世の光であると私たちに告げられました。そして、彼は再び世の光になります。それは素晴らしいことでしょう。

しかし、私は今、興味深い主題について皆さんにお話ししたいと思います。それは、ユダヤ人の見解または考え方によるメシア(救世主)観です。皆さん理解しておいてください。ユダヤ人は、人間が神になることや、神が人間になることを期待していません。彼らの考え方では、「メシア〔マシアッハ〕」という言葉は「油そそがれた」という意味です。油そそがれた人です。そして歴史を通じて、メシアに関するユダヤ人の期待は、3名の人にまつわるものでした。どういう事か、説明しましょう。多くのメシアがいて…私が「メシア」と言うのは「(唯一の)メシア」のことを言っているわけではありません。「油そそがれた者たち」の事です。彼らは旧約聖書で言及されており、彼らは正統でした。彼らはその時点で、国を率いるために油を注がれた人たちでした。神によって油を注がれ、神によって選ばれ、神によって任命されていました。しかし、預言されたメシヤ、(唯一の)メシア、唯一無二のものとなると、来たるべき一人の人物にまつわる3つの主要な預言がありました。その来たるべき人物は、歴史において、重要で強力な役割を果たすはずでした。将来に来たるべきこの人物に関するこれらの3つの主要なメシア預言は、モーセからのものが1つ。ヨセフからのものが1つ。そして、ダビデからのものが1つです。私はヨセフがメシアの予型である事について延々と教えることも出来ます。なお、私はその教えを用意していますから、多分、来年それを公開すると思います。そして、もちろんダビデも、メシアの予型です。メシア自身、つまりイエスのことを人々は「ダビデの子」と呼んでいました。旧約聖書の預言の一部では、彼らは、千年王国でエルサレムから統治する人をダビデと呼んでいます。なぜでしょうか？ なぜなら、もちろん、ダビデ、ヨセフ、モーセは、皆、神に油を注がれた人物で、彼らは指導者であり、また、イスラエルの歴史の中で非常に重要でした。これら3つはすべて、一人の人によって成就される事になっています。そして、それはもちろん、イエス・キリストでした。これらの預言はすべてユダヤ人たちのすぐ目の前にありました。それは、彼らの目の前にあったのですが、彼らが知らなかったのは、これらの3人の人物、彼らが考えていた3人のメシア、3人の油注がれた人たちが、全く同一の人物なのか、あるいは、別々の人物なのか、という事でした。彼らはそれを知らなかったんです。そして、それらは別々の人物であるようにみえました。と言うのも、どうしてレビ族から出ていながら、ユダ族から出て、また、ヨセフから出ることが出来るのでしょうか？ 一体どうやって？ そこで、彼ら

は多分こちらから出るメシアと、あちらから出るメシアがいるのだろうと考えました。彼らが理解していなかったのは、現われる人が肉においては、ユダ族の出でありながら、その役割のすべてにおいては、完璧にヨセフの予型とダビデの予型に適合することが出来たことです。王である点、自国の救世主である点、そして、このような時のために送られた点など、そういった素晴らしい事のすべて。私たちが今朝、取り扱っているのは、「モーセのような…」という事です。とても面白いことに、モーセ自身が自身よりも優れただれかについての預言を与えられました。しかしその人は、多くの点でモーセのようになります。これから、聖書の中の、「モーセのような」項目を一通り見ていき、それから最後に、イエスとモーセの違いを見たいと思います。

まず最初は...準備はいいですか。では、時間との戦いを始めますよ。

No1. まず第一に、彼はまぎれもなくイスラエルの「兄弟たちの中」にいます。なぜなら、その預言は、彼がその兄弟の中から出てくるというものだったからです。その預言者はユダヤ人でなければなりません。そしてイエスはユダ部族の出身です。ミカ書5章2節。

ベツレヘム・エフラテよ。あなたはユダの氏族の中で最も小さいものだが、あなたのうちから、わたしのために、イスラエルの支配者になる者が出る。その出ることは、昔から、永遠の昔からの定めである。

そして、マタイは福音書の1章で、イエスの系統について語って言います。マタイの福音書1章21節。

『マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。』

あるいはヘブライ語では、イエシュアです。このメッセージでは、全体を通して、イエシュアという名前を使います。ただ単に、私は皆さんに「イエシュア」という言葉が救いを意味することを理解してもらいたいからです。

**『その名をイエスとつけなさい。この方こそご自分の民をその罪から”救って”くださる方です。』
(マタイ1章21節)**

彼の名前が「救い」であるのは、彼が罪からの救いを提供するからです。だから、彼はそう呼ばれたのです。ヘブル人への手紙7章13節から14節。

私たちが今まで論じて来たその方は、祭壇に仕える者を出したことのない別の部族に属しておられるのです。私たちの主が、ユダ族から出られたことは明らかですが、モーセは、この部族については、祭司に関することを何も述べていません。非常に興味深いです。黙示録5章5節。

すると、長老のひとりが、私に言った。『泣いてはいけない。』

誰もその巻物を開くことができなかつたとき、ヨハネはとても落ち込んで、泣き始めました。巻物を開くのにふさわしい者はだれか？

『泣いてはいけない。見なさい。ユダ族から出たしし、ダビデの根が勝利を得たので、その巻き物を開いて、七つの封印を解くことができます。』

私たちは皆、7つの封印と、その一つ一つに伴う裁きのことについて知っています。そして7つの鉢や、7つのラッパや、そういったものすべて。

No2. 両者とも羊飼いでした。モーセが羊飼いだつたことを覚えていますか？彼は義父イテロの羊を世話していました。イエシュアは「わたしは良い牧者です」と言いました。もちろん、モーセもまた、羊の世話をしました。比喩的にも、文字通りにも。彼は、ミデヤンの荒野では、本物の羊を世話しました。そして、もちろん、彼は荒野の旅の間中、イスラエルの人々の群れを世話しました。出エジプト記3章1節。

モーセは、ミデヤンの祭司で彼のしゅうと、イテロの羊を飼っていた。彼はその群れを荒野の西側に追って行き、神の山ホレブにやって来た。

出エジプト記14章13節

それでモーセは民に言った。『恐れてはいけない。しっかり立って、きょう、あなたがたのために行なわれる主の救いを見なさい。あなたがたは、きょう見るエジプト人をもはや永久に見ることはできない。』

彼は最初に普通の羊を世話しました。それから、彼はイスラエルの民を世話し、彼らを守り、安心させ、そしてもちろん、多くの希望を与えました。ヨハネの福音書10章11節で、イエスは自らについて証しました。

わたしは、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。

黙示録7章17節

なぜなら、御座の正面におられる小羊が、彼らの牧者となり、いのちの水の泉に導いてくださるからです。また、神は彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださるのです。

ヘブル人への手紙13章20節

永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを死者の中から導き出された平和の神が、イエス・キリストにより、御前でみこころにかなうことを私たちのうちに行ない、あなたがたがみこころを行なうことができるために、すべての良いことについて、あなたがたを完全な者としてくださいますように。どうか、キリストに栄光が世々限りなくありますように。アーメン。

No.3. 両者が救いをもたらすために遣わされたのは、見かけ上、神が400年間休まれていた後のことでした。面白いですね。イスラエル人はエジプトで400年間奴隷でした。そして、イエシュア、つまりイエスが来られる前の400年間は、とりわけ神が沈黙しておられた時期でした。覚えてますか。創世記15章13節。

そこで、アブラムに仰せがあった。『あなたはこの事をよく知っていなさい。あなたの子孫は、自分たちのものではない国で寄留者となり、彼らは奴隷とされ、四百年の間、苦しめられよう。』

その数が記されているのは興味深いです。それから、もちろん、出エジプト記12章40節。

イスラエル人がエジプトに滞在していた期間は四百三十年であった。

使徒7章6節

また神は次のようなことを話されました。『彼の子孫は外国に移り住み、四百年間、奴隷にされ、虐待される。』

ガラテヤ3章17節

私の言おうとすることはこうです。先に神によって結ばれた契約は、その後四百三十年たってできた律法によって取り消されたり、その約束が無効とされたりすることがないということです。

マラキがその書を書き終えたのは、紀元前430年頃でした。ガラテヤ4章4節。

しかし定めの時が来たので、神はご自分の御子を遣わし、この方を、女から生まれた者、また律法の下にある者となさいました。

いいですか、神は時を定めておられ、その時が来たとき、モーセのようになるために、彼はまさにその日に来なければなりませんでした。

No4. 両者とも40昼夜、断食しました。モーセはシナイ山にいる間に、そして、イエシュアはユダヤの荒野でサタンに誘惑されたときに。出エジプト記34章28節。

モーセはそこに、四十日四十夜、主とともにいた。彼はパンも食わず、水も飲まなかった。そして、彼は石の板に契約のことは、十のことは書きしるした。

マタイ4章1-2節

さて、イエスは、悪魔の試みを受けるため、御霊に導かれて荒野に上って行かれた。そして、四十日四十夜断食したあとで、空腹を覚えられた。

まあ、私も40日後には空腹になっているでしょう。しかし、考えてみてください。その類似点を。その条件を完全に満たさなければならないという必要性、モーセ自身が行ったことを。なぜなら、その域において、彼はモーセのようであるからです。

No5. 両者とも子供のころ、エジプトにいました。面白くないですか？ イエス（イエシュア）でさえ、ヘロデから逃れるため、赤ちゃんの時、しばらくの間、そこに隠されていなければなりませんでした。皆さん、出エジプト記2章5節から6節は、モーセについて書いてあります。出エジプト2章5節から6節。

パロの娘が水浴びをしようとナイルに降りて来た。彼女の侍女たちはナイルの川辺を歩いていた。彼女は葦の茂みにかごがあるのを見、はしためをやって、それを取って来させた。それをあけると、子どもがいた。なんと、それは男の子で、泣いていた。彼女はその子をあわれに思い、『これはきっとヘブル人の子どもです。』と言った。

マタイ2章13節

彼らが帰って行ったとき、見よ、主の使いが夢でヨセフに現われて言った。『立って、幼子とその母を連れ、エジプトへ逃げなさい。そして、私が知らせるまで、そこにいなさい。ヘロデがこの幼子を捜し出して殺そうとしています。』

面白くないですか？ 神はエジプトをモーセとイエス両者の避難所として用いられました。

No6. 両者とも、邪悪な王が地域のすべてのユダヤ人男児に、死を宣告した時に生まれました。パロは、すべてのヘブル人の男児を出生時に溺死させるように命じていました。そして、ヘロデは2歳未満のすべての男の子を殺す命令を出していました。両者とも奇跡的にその脅威から救出されました。

出エジプト記1章15節から16節。

また、エジプトの王は、ヘブル人の助産婦たちに言った。そのひとりの名はシフラ、もうひとりの名はプアであった。彼は言った。『ヘブル人の女に分娩させるとき、産み台の上を見て、もしも男の子なら、それを殺さなければならない。女の子なら、生かしておくのだ。』

マタイ2章16節

その後、ヘロデは、博士たちにだまされたことがわかると、非常におこって、人をやって、ベツレヘムとその近辺の二歳以下の男の子をひとり残らず殺させた。

ほら、興味深いでしょう。二人とも男の子供たちを見つけ出そうとしていました。マタイ2章16節。

ベツレヘムとその近辺の二歳以下の男の子をひとり残らず殺させた。その年令は博士たちから突き止めておいた時間から割り出したのである。

No7. 両者とも(人々を)導き、救うために神から召命を受けました。面白いと思いませんか。出エジプト記14章31節。

イスラエルは主がエジプトに行われたこの大いなる御力を見たので、民は主を恐れ、主とそのしもべモーセを信じた。

使徒7章25節

彼(モーセ)は、自分の手によって神が兄弟たちに救いを与えようとしておられることを、みな理解してくれるものと思っておりましたが、彼らは理解しませんでした。

ルカの福音書19章10節

『人の子が来たのは失われたものを探して救うためである』と。

ヨハネの福音書3章16節は、みんな知っていますね。

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

ヨハネ6章38節

わたしが天から下って来たのは、自分のところを行なうためではなく、わたしを遣わした方のみところを行なうためです。

No8. 両者とも、神から与えられた権威を証しするために、奇跡を行ないました。出エジプト記7章20節。

モーセとアロンは主が命じられたとおりに行なった。彼はパロとその家臣の目の前で杖を上げ、ナイルの水を打った。すると、ナイルの水はことごとく血に変わった。

民数記20章11節

モーセは手を上げ、彼の杖で岩を二度打った。すると、たくさんの水がわき出たので、会衆もその家畜も飲んだ。

マタイ8章23-26節

イエスが舟にお乗りになると、弟子たちも従った。すると、見よ、湖に大暴風が起こって、舟は大波をかぶった。ところが、イエスは眠っておられた。弟子たちはイエスのみもとに来て、イエスを起こして言った。『主よ。助けてください。私たちはおぼれそうです。』イエスは言われた。『なぜこわがるのか、信仰の薄い者たちだ。』それから、起き上がって、風と湖をしっかりとつけられると、大なぎになった。

マルコの福音書8章22-25節

彼らはベツサイダに着いた。すると人々が、盲人を連れて来て、さわってやってくださるようにイエスに願った。イエスは盲人の手を取って村の外に連れて行かれた。そしてその両眼につばきをつけ、両手を彼に当ててやって、『何か見えるか。』と聞かれた。すると彼は、見えるようになって、『人が見えます。木のようですが、歩いているのが見えます。』と言った。それから、イエスはもう一度彼の両眼に両手を当てられた。そして、彼が見つめていると、すっかり直り、すべてのものがはっきり見えるようになった。

Na9. 両者とも多くの人に救いをもたらす血の契約を制定しました。モーセは、イスラエル人の門柱に塗られた過越の子羊の血によって。そして、神の子羊であるイエシュアは、十字架の梁の上に流されたご自分の血で新しい誓約をもたらされました。面白いですね。出エジプト記12章5、7、13節。

あなたがたの羊は傷のない一歳の雄でなければならない。それを子羊かやぎのうちから取らなければならない。その血を取り、羊を食べる家々の二本の門柱と、かもいに、それをつける。あなたがたのいる家々の血は、あなたがたのためにしるしとなる。わたしはその血を見て、あなたがたの所を通り越そう。

だから、それは過越しと呼ばれるのです。“わたしはあなたを通り越そう。”神は、あなたがユダヤ人だったら通り越そうと言っているではありません。あるいは、あなたがフィリピン人だったら、とか、イスラム教徒だったら、キリスト教徒だったら、仏教徒だったら、でもなく、重要なのは、血です。皆さん、分かりますか。皆さんは、好きなだけクリスチャンだと自称できますが、あなたがクリスチャン家庭に生まれからと言って、それは何の意味もありません。あなたが自分の心の門柱にイエスの血を塗らないなら、何にもなりません。

出エジプト12章13節

あなたがたのいる家々の血は、あなたがたのためにしるしとなる。わたしはその血を見て、あなたがたの所を通り越そう。わたしがエジプトの地を打つとき、あなたがたには滅びのわざわいは起こらない。

出エジプト24章8節

そこで、モーセはその血を取って、民に注ぎかけ、そして言った。『見よ。これは、これらすべてのことばに関して、主があなたがたと結ばれる契約の血である。』

興味深いのは、マタイ26章です。マタイ26章28節。イエスは最後の晩餐で言われました。

これは、わたしの契約の血です。罪を赦すために多くの人のために流されるものです。

ルカ22章20節

食事を終えてから、杯も同じようにして言われた。『この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である。』

イエスは言われます。それはわたしの血であり、羊やヤギの血よりも優れている。それは完璧な血であり、あなたが毎日、一日中塗り続けなければならないものではありません。なぜなら、それは一度きりだからです。そして、それが、2000年前に私たちに与えられたその犠牲の美しさです。

Na10. 両者とも、天から声がして、神の公的な承認を与えられたのを群衆が耳にしました。モーセはシナイ山で、イエシュアはそのバプテスマで。出エジプト記19章9節。

すると、主はモーセに仰せられた。『見よ。わたしは濃い雲の中で、あなたに臨む。わたしがあなたと語るのを民が聞き、いつまでもあなたを信じるためである。』

マタイ3章17節

また、天からこう告げる声が聞こえた。『これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。』

ペテロは後に証^{あかし}しました。私はイエスを見ただけでなく、私は自分の耳で、神が変貌の山で彼のことを証されるのを聞きました。「これはわたしの愛する子」

No11. 両者とも、奉仕と貧困のつましい生活を送るために、莫大な財産を放棄しました。モーセはエジプト王の宮殿から。イエシュアは天の高みから。二人ともその非常な謙虚さで有名でした。ヘブル11章24-27節。

信仰によって、モーセは成人したとき、パロの娘の子と呼ばれることを拒み、はかない罪の楽しみを受けるよりは、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました。彼は、キリストのゆえに受けるそしりを、エジプトの宝にまさる大きな富と思いました。彼は報いとして与えられるものから目を離さなかったのです。信仰によって、彼は、王の怒りを恐れなくて、エジプトを立ち去りました。目に見えない方を見るようにして、忍び通したからです。

ピリピ2章6-8節

キリストは、神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てることができないとは考えなくて、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたのです。キリストは人としての性質をもって現われ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われたのです。

単なる死ではなく、最も屈辱的なかたちの死です。その当時、犯罪者だけに用いられていたものです。

No12. 両者とも、最初に、予告されていた救いが告げられた通りに実現しないかのように見えた時、ユダヤ人によって拒絶されました。モーセが初めてパロに挑んだとき、事態はイスラエル人にとってぐんと悪化し、絶望と怒りをもたらしました。イエシュアの十字架刑は無力な敗北のように見えました。両者の救いの状況は、初めは約束が実現しないように見えました。しかし、それらは実現したんです。民数記14章1-4節。

全会衆は大声をあげて叫び、民はその夜、泣き明かした。イスラエル人はみな、モーセとアロンにつぶやき、全会衆は彼らに言った。『私たちはエジプトの地で死んでいたらよかったのに。できれば、この荒野で死んだほうがましだ。なぜ主は、私たちをこの地に導いて来て、剣で倒そうとされるのか。私たちの妻子は、さらわれてしまうのに。エジプトに帰ったほうが、私たちにとって良くはないか。』そして互いに言った。『さあ、私たちは、ひとりのかしらを立ててエジプトに帰ろう。』

悲しいですね。

マタイ23章で、イエスは、あの勝利の入城の際に、街に入りながら、エルサレムを見て…。マタイ23章37節。

ああ、エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者。わたしは、めんどりがひなを翼の下に集めるように、あなたの子らを幾たび集めようとしたことか。それなのに、あなたがたはそれを好まなかった。

ただあなたが望むのは、その反対です！使徒2章36節。

ですから、イスラエルのすべての人々は、このことをはっきりと知らなければなりません。すなわち、神が、今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。

使徒4章11節

『あなたがた家を建てる者たちに捨てられた石が、礎の石となった。』というのはこの方のことです。

拒絶が起こったのですが、その後、神はそれをひっくり返し、最も重要な石とされました。

No13.両者とも、自分の家族から批判されました。マルコ3章20-21節におけるマリアとイエシュアの兄弟たち。そして、モーセの姉と兄。面白くありませんか。民数記12章1節。

そのとき、ミリヤムはアロンといっしょに、モーセがめとっていたクシュ人の女のことで彼を非難した。モーセがクシュ人の女をめとっていたからである。

へええ。ほとんどの皆さんは、きっとそれを知らなかったでしょう。マルコ3章20-21節。

イエスが家に戻られると、また大ぜいの人が集まって来たので、みなは食事する暇もなかった。イエスの身内の者たちが聞いて、イエスを連れ戻しに出て来た。『気が狂ったのだ。』と言う人たちがいたからである。

No14. 両者とも、自分が率いていた人々のために自分の命を犠牲にし、その人々の罪の支払いをすることを厭いといませんでした。ご存知でしょうか。信じないかも知れませんが、モーセは、同胞の人々の罪の代償を支払おうとしました。出エジプト記32章で、彼がシナイ山から降りてきたときです。そして、もちろん、イエシュア自身が私たちの代わりに喜んで死のうとされていたことは、ゲツセマネの園で明らかでした。出エジプト記32章は私の大好きな章の1つです。32章と33章は私のお気に入りです。それらは非常に悲しい章なのですが、同時にとても真実なものです。出エジプト記32章11-12節。

しかしモーセは、彼の神、主に嘆願して言った。『主よ。あなたが偉大な力と力強い御手をもって、エジプトの地から連れ出されたご自分の民に向かって、どうして、あなたは御怒りを燃やされるのですか。...どうか、あなたの燃える怒りをおさめ、あなたの民へのわざわいを思い直してください。』

そして、30節(出エジプト32章30節)。

翌日になって、モーセは民に言った。『あなたがたは大きな罪を犯した。』あの金の子牛のことです。『それで今、私は主のところへ行って行く。たぶんあなたがたの罪のために贖うことができるでしょう。』

面白いですね。マタイ26章29節

それから、イエスは少し進んで行って、ひれ伏して祈って言われた。『わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うようにはではなく、あなたのみこころのように、なさってください。』

No15. 両者とも奇跡的に人々にパンを与えました。マナはイスラエル人のために天から送られ、そして、良く知られていることですが、イエシュアは二度、群衆に食事を与えました。彼はまた、ご自身が天からのパンであると証しました。出エジプト記16章の記述。出エジプト記16章13-15節。

それから、夕方になるとうずらが飛んで来て、宿営をおおい、朝になると、宿営の回りに露が一面に降りた。その一面の露が上がると、見よ、荒野の面には、地に降りた白い霜のような細かいもの、うるこのような細かいものがあった。イスラエル人はこれを見て、『これは何だろう。』と互いに言った。彼らはそれが何か知らなかったからである。モーセは彼らに言った。『これは主があなたがたに食物として与えてくださったパンです。』

おお！そして、マタイ14章17-21節。

弟子たちはイエスに言った。『ここには、パンが五つと魚が二匹よりほかありません。』すると、イエスは言われた。『それを、ここに持って来なさい。』そしてイエスは、群衆に命じて草の上にすわらせ、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて、それらを祝福し、パンを裂いてそれを弟子たちに与えられたので、弟子たちは群衆に配った。人々はみな、食べて満腹した。そして、パン切れの余りを取り集めると、十二のかごにいっぱいあった。食べた者は、女と子どもを除いて、男五千人ほどであった。

彼らの妻や子供の数は入れられていません。何千人もの人々が、主イエスによって養われました。彼は受肉された神です。エジプトを脱出し、地面に降りたあのマナで養われた何百万人…少なくとも100万人のように。

ヨハネ6章32-34節

イエスは彼らに言われた。『まことに、まことに、あなたがたに告げます。モーセはあなたがたに天からのパンを与えたではありません。しかし、わたしの父は、あなたがたに天からまことのパンをお与えになります。というのは、神のパンは、天から下って来て、世にいのちを与えるものだからです。』

イエスは言われました。「わたしがいのちのパンです。わたしは天から来たのです。モーセがパンをもたらしたのではありません。パンは天から来たのです。わたしがそのパンです。」そこで彼らはイエスに言った。『主よ。いつもそのパンを私たちにお与えください。』

彼らはイエスが何を言っているのか、まだ理解していませんでした。彼はもちろん、ご自分のことについて話しておられました。

No16. 両者とも異邦人によって受け入れられました。ミデヤン人であったモーセの義父は、即座に信じました。エジプト人もまた、イスラエルの神は本物で真実であると信じるようになりました。そして、非ユダヤ人たちはイエシュアの救いのメッセージを喜んで受け入れました。面白いですね。出エジプト記18章10-11節。

イテロは言った。『主はほむべきかな。主はあなたがたをエジプトの手と、パロの手から救い出し、この民をエジプトの支配から救い出されました。今こそ私は主があらゆる神々にまさって偉大であることを知りました。実に彼らがこの民に対して不遜であったということにおいても。』

使徒8章34-38節

宦官はピリポに向かって言った。

その宦官はエチオピアの宦官です。彼はユダヤ人ではなく、エルサレムからガザに向かう途中でした。彼はピリポと共に馬車に座っていましたが、ピリポにあったのは1つの小さな巻物だけでした。彼がその宦官と共有できた唯一の書でした。それは、イザヤ書でした。信じようと信じまいと、旧約聖書は重要です！そして、ユダヤ人でもない人が、一冊の書によってキリストに導かれました。旧約聖書全体でさえもありません。

『預言者はだれについて、こう言っているのですか。どうか教えてください。自分についてですか。それとも、だれかほかの人についてですか。』ピリポは口を開き、この聖句から始めて、イエスのことを彼に宣べ伝えた。道を進んで行くうちに、水のある所に来たので、宦官は言った。『ご覧なさい。水があります。私がバプテスマを受けるのに、何かさしつかえがあるのでしょうか。』これに対して、ピリポは、『あなたがまごころから信じるなら、受けてさしつかえはありません』と言った。(口語訳)

彼は次のようには言いませんでした。「あなたは私たちの教会の委員会の前に立たなければなりません。私たちはあなたにいくつか質問をして、あなたがかくかくしかじかの事を知っているか、テストしたいと思います。私たちはまた、あなたの外見もチェックしたいですから、後ろを向いてください。それから…」違います！「あなたがまごころか

ら信じるなら、」です。皆さんに教えた話があります。皆さんもそれに共感されるかも知れません。私の息子が、兵役につく前でした。彼は18歳になって、私たちは、彼がバプテスマを受けるのに良い時期だろうと思いました。そこで、彼は私たちの集会に来ました。私たちの集まりには主任牧師はいません。長老たちがいて、彼は8人くらいいた長老たちと一緒に座っていました。彼は緊張していました。私は参加しませんでした。それは息子と長老たちの間の事である筈はずだったので。そして、彼らは彼に尋ねました。「アリエル、君は心の底から信じていますか？」彼が何と言ったかわかりますか。彼は「僕は90%確信しています」と言ったんです。彼はバプテスマを受けませんでした。3年半後、彼は兵役を終えて、彼は多くの問題に向き合わなければなりません。英国の弟子訓練プログラムに6週間参加しました。彼は戻ってきて、言いました。「お父さん、僕、もう確信があるよ」そして彼はバプテスマを受けました。あなたが心の底から信じるなら。90%ではありません。それならば、受けてもいいのです。使徒8章34-38節。

すると、彼は『わたしは、イエス・キリストを神の子と信じます』と答えた。そこで車をとめさせ、ピリポと宦官と、ふたりとも、水の中に降りて行き、ピリポが宦官にバプテスマを授けた。

使徒28章28節

『ですから、承知しておいてください。神のこの救いは、異邦人に送られました。彼らは、耳を傾けるでしょう。』

No17. モーセの下で、信じてその指示に従い、戸に犠牲の血を塗ったすべての人たちは、死を免れました。これは、エジプトをた発ったすべての人たちは信仰の一步を踏み出し、救われたことを意味します。彼らはもはやヘブル民族というだけではありませんでした。彼らは信仰共同体になっていました。同様に、イエシュアの下では、私たちが死の力から救うために流された彼の犠牲の血を適用したすべての人たちは、彼に従う人々の信仰共同体に入ったのです。肌の色や、年齢、そして間違いなく、民族的背景による違いはありません。あなたがその血を適用し、あなたが彼を信じるなら、あなたは救われます。ヘブル11章28節。

信仰によって、初子を滅ぼす者が彼らに触れることのないように、彼は過越と血の注ぎとを行ないました。

ガラテヤ3章27-28節

バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男子も女子もありません。なぜなら、あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって、一つだからです。

それは、もはや男性や女性、奴隷や自由人、ギリシヤ人やユダヤ人がいないという意味ではありません。それは、キリスト・イエスにあっては不公平がないことを意味します。神はユダヤ人信者のことをフィリピン人信者よりももっと愛してはいません。そんな事はありません。皆さんはそれを理解していますか？なぜ多くの異邦人がユダヤ人になりたがるのか私には理解できません。神があなたをもっと愛してくださると思うのですか？

No18. 7週間、出エジプトから50日後、イスラエル人は神を待って、トーラー、つまり律法を受けました。彼らは救われたのだから、今後、どのように生きるべきか？神はモーセに契約を与え、信仰共同体としてどう生きるべきか、指示を与えました。7週間、復活から50日後、弟子たちは、聖霊を受けるために、イエシュアが指示された通りに待ち、教会が生まれました。新しい信仰共同体、そして信者としての新しい生き方です。出エジプト記24章7節。

そして、契約の書を取り、民に読んで聞かせた。すると、彼らは言った。『主の仰せられたことはみな行ない、聞き従います。』

ヨハネ16章13節

しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞くままを話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。

No19. 両者の顔は天の栄光で輝いていました。彼らを見た人々がそれに気づきました。モーセの顔はあまりにも光を放っていたので、彼は顔に覆いを掛けなければなりませんでした。そしてイエシュアの弟子たちは、変貌の山で彼の栄光を見ました。出エジプト記34章30-33節。

アロンとすべてのイスラエル人はモーセを見た。なんと彼の顔のはだが光を放つではないか。それで彼らは恐れて、彼に近づけなかった。モーセが彼らと呼び寄せたとき、アロンと会衆の上に立つ者がみな彼のところに戻って来た。それでモーセは彼らに話しかけた。それから後、イスラエル人全部が近寄って来たので、彼は主がシナイ山で彼に告げられたことを、ことごとく彼らに命じた。モーセは彼らと語り終えたとき、顔におおいを掛けた。

マタイ17章1-2節

それから六日たって、イエスは、ペテロとヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に導いて行かれた。そして彼らの目の前で、御姿が変わり、御顔は太陽のように輝き、御衣は光のように白くなった。

No20. モーセはカナンを偵察するために12人のスパイを選びました。そしてイエシュアは12人の弟子を選びました。モーセはイスラエルの上に70人のつかさを任命し、イエシュアは福音を伝えるために70人の弟子を送り出しました。民数記13章1-2節。

主はモーセに告げて仰せられた。『人々を遣わして、わたしがイスラエル人に与えようとしているカナンの地を探らせよ。父祖の部族ごとにひとりずつ、みな、その族長を遣わさなければならない。』

民数記11章16節

主はモーセに仰せられた。『イスラエルの長老たちのうちから、あなたがよく知っている民の長老で、そのつかさである者七十人をわたしのために集め、彼らを会見の天幕に連れて来て、そこであなたのそばに立たせよ。』

そして、もちろん、新約聖書のルカの福音書6章では、ルカ6章12-13節。「このころ、イエスは祈るために山に行き、神に祈りながら夜を明かされた。」イエスは長い祈りと考慮なしには誰を任命する事ありませんでした。「夜明けになって、弟子たちを呼び寄せ、その中から十二人を選び、」面白いと思いませんか。イエスは一晩中、祈りました。聖書ははっきりと述べています。彼は「神に祈りながら夜を明かされた。その中から十二人を選び、彼らに使徒という名をつけられた。」

いいですか。最近、毎朝のように現れて、自らを使徒と名乗る新しい使徒たちですが、私たちは非常に、非常に注意しなければなりません。その言い方について…これらは聖霊を通して神によって任命された使徒であり、皆さんが理解しなければならない事があります。聖書は、教会は使徒と預言者の土台の上に建てられていると述べているんです。そしてイエスがその礎の石です。その上に建てられたのです。だから、これらの使徒たちは聖書を書いたのです！私が言いたいのは…、現代の使徒たちは、聖書を書く事が出来ますか？彼らは聖書を変える事が出来ますか？できません！さて、私は送り出されるという点では使徒の役割を侮りはしません。それは別の話です。しかし、誰かが自分のことを1世紀の使徒の「新型」であると思うなら、それは間違っています！そして、もちろん、ルカ10章。ルカ10章1節。

その後、主は、別に七十人を定め、ご自分が行くつもりのすべての町や村へ、ふたりずつ先にお遣わしになった。

No21. モーセは人々を奴隷の状態から脱出させ、荒野に導きました。40年間の放浪、苦難、そしてつらい経験を通して多くの教訓が学ばれました。しかし、ずっと神の助けと臨在がありました。約束の地は後になってやっと来ます。イエシュアは、まだこの墮落した地上で私たちが神と生きるために私たちを贖いました。いいえ、私たちはすぐに天国に移されはしません。限られた時間です。痛みや苦悩がないわけではありません。パウロは言います。「私は走るべき道のりを走り切った。私は勇敢に戦った」戦いがあり、走るべき道のりがあり、守るべき信仰があります。限られた時間で、痛みや苦悩がないのではなく、辛い経験を通して多くの教訓が得られます。しかし、すべては神の助けと臨在によって。本来、私たちが造られた、病気も痛みも死もない人生は、まだ将来の事です。もはや涙も、痛みも悲しみもない約束の地、新しいエルサレムは、間近に迫っています。

ヨシュア記5章6節

イスラエル人は、四十年間、荒野を旅していて、エジプトから出て来た民、すなわち戦士たちは、ことごとく死に絶えてしまったからである。彼らは主の御声に聞き従わなかったので、主が私たちに与えると彼らの先祖たちに誓われた地、乳と蜜の流れる地を、主は彼らには見せないと誓われたのであった。

ローマ8章16-18節

私たちが神の子どもであることは、御霊ご自身が、私たちの霊とともに、あかししてくださいます。もし子どもであるなら、相続人でもあります。私たちがキリストと、栄光をともに受けるために苦難をともにしているなら、私たちは神の相続人であり、キリストとの共同相続人です。今の時のいろいろの苦しきは、将来私たちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足りないものと私は考えます。

アーメン！

という事で、私たちはすべての類似点を見てきました。では、数少ない、大きな相違点を見てみましょう。イエスがモーセとは異なっているところです。

1. モーセは完璧ではなく、約束の地に渡りませんでした。面白くないですか？ もちろん、彼が復活の体において変容するまでの事です。しかし、イエシュアは完璧で、私たちのために場所を整えるために先に行かれ、御父の右に座っておられます。民数記27章12-14節。

ついで主はモーセに言われた。『このアバリム山に登り、わたしがイスラエル人に与えた地を見よ。それを見れば、あなたもまた、…あなたの民に加えられる。』あなたの民に加えられるとは、あなたが死ぬことを意味します。『あなたの兄弟アロンが加えられたように、…ツインの荒野で会衆が争ったとき、あなたがたがわたしの命令に逆らい、その水のほとりで、彼らの目の前に、わたしを聖なる者としなかったからである。』これはツインの荒野のメリバテ・カデシュの水のことである。

だから、モーセは約束の地に入ることを許されませんでした。40年間、イスラエルを率いた後で。彼は完璧ではなかった。彼は反抗的でした。モーセにも調子の悪い日があり、怒りもし、罪も犯しました。しかし、ヨハネ14章3節では、イエスはご自身で証し、わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのものと迎えます。わたしのいる所に… イエスは証します。見なさい、わたしは父の右の座につきます。わたしは天の住人です。天はわたしの住まいであり、わたしは来て、あなたがたをわたしのものと迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。

ローマ8章34節

罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしていてくださるのです。

両者の間の2つ目の大きな違いは次のとおりです。神はモーセを通して一つのグループだけを救われました。イエス、イエシュアを通して、救いはあらゆる国民、あらゆる部族、あらゆる国語に与えられています。興味深いことに、14世紀のラビ、レヴィ・ベン・ゲルシオンは、こう言いました。申命記18章に関する解説をして、「あなた [モーセのこと] のうちから、…預言者をあなたのために起こされる」 実際、メシヤは、以下の節のミドラーシュ(注釈書)に述べられている通り、そのような預言者であり、イザヤ52章13節。見よ。わたしのしもべは栄える。モーセは、彼の行なった奇跡によって、一つの国民を神の礼拝に導いた。しかし、メシヤは、あらゆる民族を神の礼拝に引き寄せる。そのラビがそう言ったのです！驚きます！出エジプト記3章11節。

モーセは神に申しあげた。『私はいったい何者なのでしょう。パロのもとに行って”イスラエル人”をエジプトから連れ出さなければならないとは。』

それが彼への指令でした。イスラエル人だけです。そして、もちろん、黙示録7章9-10節では、

その後、私は見た。見よ。あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、だれにも数えきれぬほどの大ぜいの群衆が、白い衣を着、…御座と小羊との前に立っていた。

皆さん！これは私たちです！私たちはそこにいるんです。黙示録7章では、教会はすでに取り除かれています。黙示録4章。ヨハネは上げられました。これは携挙の図式です。私たちはそこで何をやる事になるのでしょうか？主を礼拝します。

白い衣を着、しゅろの枝を手に持って、御座と小羊との前に立っていた。彼らは、大声で叫んで言った。『救いは、御座にある私たちの神にあり、小羊にある。』

皆さんはもうこれらの聖句を唱えて、暗記しておいた方がいいですよ。私たちは天でそれを歌う事になるんです。

3つ目。モーセはイスラエルの民に神の律法を与えました。イエスはキリストの律法を全世界に与えました。美しいですよ。ヨハネ1章17節。

というのは、律法はモーセによって与えられ、恵みとまことはイエス・キリストによって実現したからである。

ガラテヤ6章2節

互いの重荷を負い合い、そのようにしてキリストの律法を全うしなさい。

それは別のものです。マタイ22章37節

そこで、イエスは彼に言われた。『「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。」これがたいせつな第一の戒めです。「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。律法全体と預言者とが、この二つの戒めにかかっているのです。』

4つ目。決定的に重要な事ですが、言うまでもなく、イエシュアは事実、神の御子でした。神のことばそのものが、恵みとまことに満ちて、私たちの間に来て住まわれました。神は肉となって、私たちの間に住まわれました。メシヤなるイエシュアです。それはモーセではありません。彼はメシヤです。イエスがメシヤです。ヨハネ1章1-2節。

初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。この方は、初めに神とともにおられた。

モーセは、初めに神とともにいませんでした。モーセは天地創造の時にそこにいませんでした。イエスはおられました。ヨハネ1章14節。

ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。

モーセのうちに、美しいイエスの図式がある事を今日皆さんが理解された事を願っています。それでありながら、素晴らしい相違点もあり、それを検討するのは、非常に面白いです。

お父様、私たちはあなたの御言葉に感謝します。あなたの御言葉は真実です。私たちには、旧約聖書の全体を通して、メシアの美しい予型が見えます。そしてキリスト・イエスにおいてのみ、すべての事が成就されました。私たちはあなたに感謝し、あなたをほめたたえます。

イエスの御名によって。

アーメン。アーメン。



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2020.05.19 (Tue)